

農地の窓口



平成28年7月20日

近畿大学 農学部 農業生産科学科

3年 中井隆教・坂壮一郎・堂下聖匡

本提案に主に関連する課題は、農業・高齢者・雇用

■ 農業課題

- 耕作放棄地
- 農村の過疎化 等



■ 高齢者課題

- 高齢者の雇用の創出
- 健康づくり 等

■ 雇用課題

- 雇用の創出
- 若年者の職業人としての意識の熟成 等



■ 農業

■ 耕作放棄地が増加傾向

(平成12年度 3,414ha⇒平成27年 3,632ha) 出典:奈良県WEB(耕作放棄地対策)

- 県民アンケートでも注目度が高い(環境問題、景観)

■ 農業者の担い手不足、高齢化

■ ブランド力のある品目、一大消費地(大阪)との近さ

■ 高齢者

■ 老年人口が全体の約3割(平成27年 39万人)

■ 健康づくりへの意識が高い(奈良県調査)

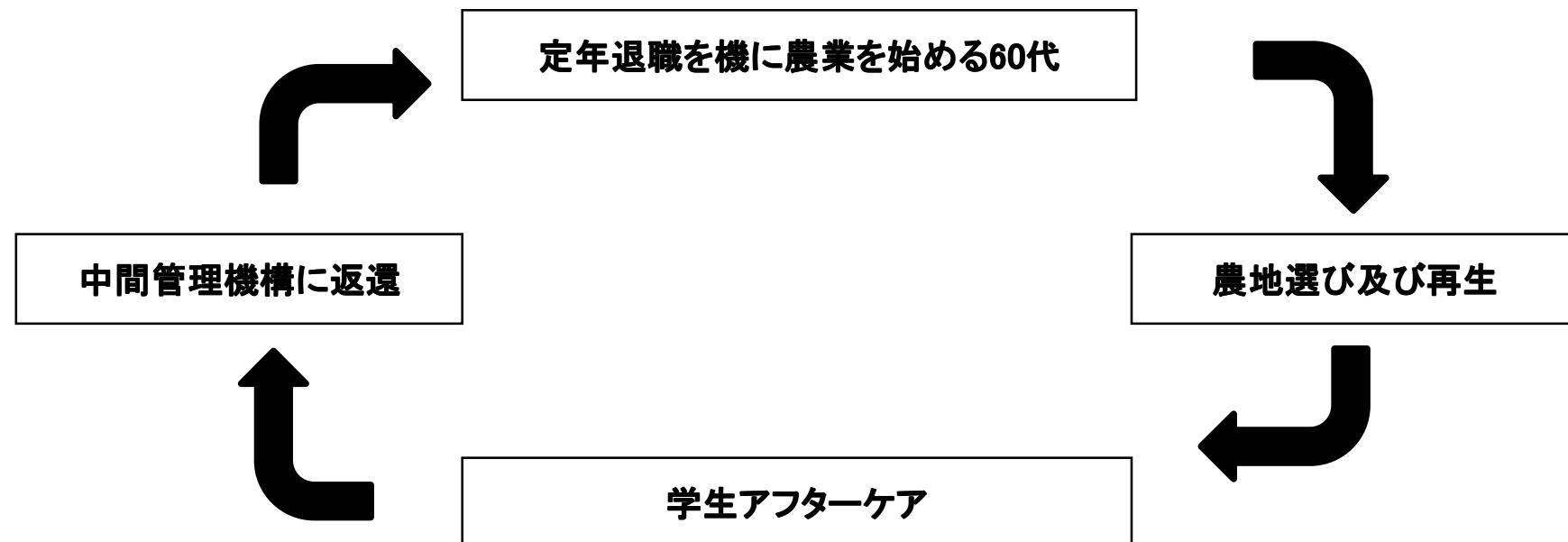
■ 雇用

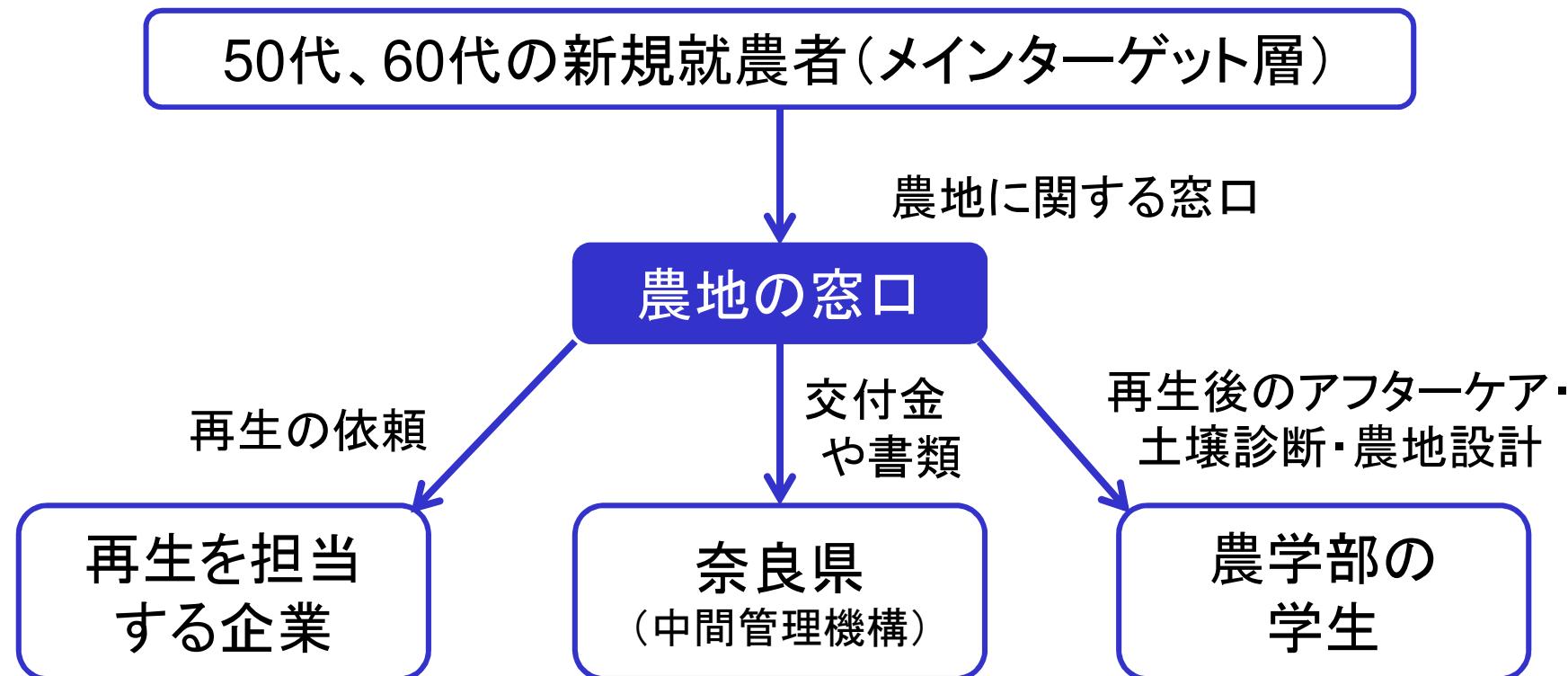
■ 県外就業率が非常に高い(平成25年 29.9%)

■ 雇用の受け皿となる企業が少ない

- 五年後に耕作放棄地を再生する(100ha)
- 高齢者の健康づくり、雇用創出のモデルにする
- 建築・土木会社の農業への参入モデルとし、雇用を創出する
- 農学系の学生の職業意識を高める

【高齢者型農業のモデルイメージ】





- 「農地の窓口」の設置(※農業参入のための相談窓口)
 - 相談窓口を1本化することで、参入へのハードルを下げる
 - 農地選びや耕作放棄地再生の見積もり、交付金や水利権などを詳しく知ることができるようにする

■ 農地設計

- 農地設計を本学部生が行う
- 「健楽農業モデル(平成26年度 本コンペ 最優秀賞)」を参考に、
就農者が楽しく農業を行える農地を設計する

■ 耕作放棄地の再生

- 建築・土木会社のニーズ調査と依頼
- 新規就農者にあった圃場整備を行い、ニーズに応える

■ アフターケア

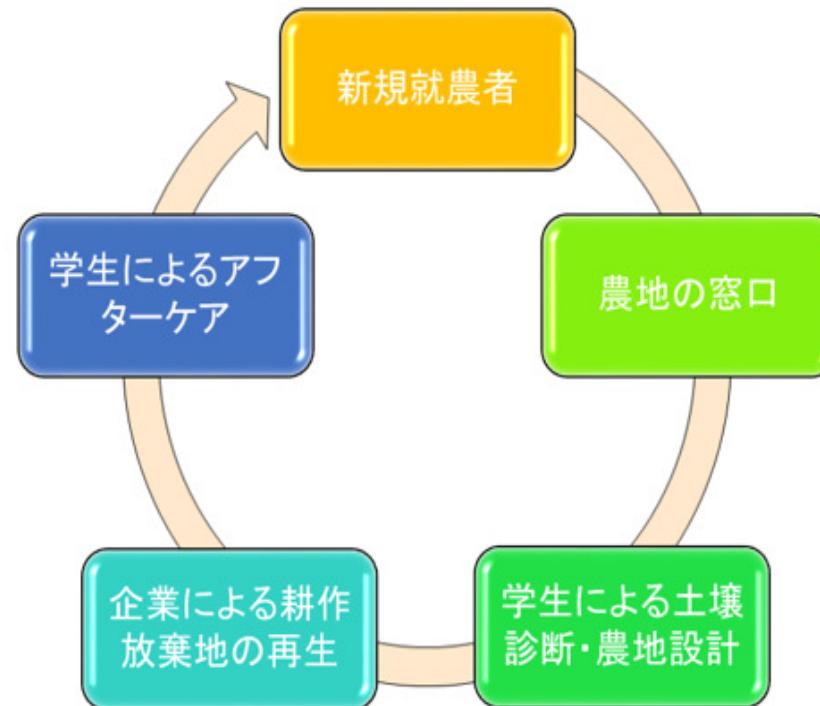
- 就農後のアフターケアとして、草刈りや収穫作業の
サポートを近畿大学の農業サークルが行う

■ 実施場所

- モデル地域としては、**平群町(都市近郊型)**と
五條市(農村型)を想定

※いずれの地域の関係者(役場、農業者等)とも接点あり

【提案内容の進め方 ・手順のイメージ】



■ 新規就農者への効果

- 就農しやすくなる(農地探し、農地整備、営農計画 等)
- アフターケアの充実により、農業を無理なく継続できる

■ 県全体(住民含む)への効果

- 耕作放棄地が解消する、地域環境の改善にもつながる
- 就農等により、高齢者の雇用が創出される
- 高齢者の健康が維持され、医療費の削減につながる

■ 農地再生を担当する企業への効果

- 農業の知識や技術を知ることができ、農業分野への参入のハードルが下がる
- 農業関係者等を取り込むことで、雇用が増大する

■ 準備期間(平成29年4月～9月)

- 企業探し及び協力の依頼
- 近畿大学内にある農業サークルに協力を要請
- 平群町、五條市のデータ収集・分析
- サービスパッケージの作成 等

■ サービス開始(平成29年10月～平成30年3月)

- 農業大学校にブース設置
- 年配者サークルや団体に本政策を紹介
- 耕作放棄地で新規就農者が農業を始められるように、就農者にあった農地設計及び耕作放棄地の再生を実施
- アフターケアの実施 等

■ 本提案のポイント

- 様々な主体と連携する。主役は農業者や企業等
- 単発のイベントではなく、モデル・仕組みづくりを行う
- 自分にあった農地を選択できるので、年齢・性別問わず本サービスを利用利用することができる
- 都市近郊でもサービスを開始するので、団体やサークルが無理なく本サービスを利用し、農業ができる
- 企業も農業者もビジネスとして成り立つ仕組み